



## マンガに見る方言

日本語学基礎演習

### 国文学科

日本大学文理学部

NIHON UNIVERSITY

Department of  
Japanese Language  
and Literature

はじめに

関西弁キャラクター

方言ステレオタイプ

人気作品の方言の使われ方

外国人キャラクターの方言

各雑誌の方言使用傾向

方言使用キャラクター比較

検索

印刷用PDF

- ▶ 日本大学文理学部国文学科サイト
- ▶ お問い合わせ

## はじめに

### 1. 「日本語学基礎演習」の位置づけ

「日本語学基礎演習」は、国文学科の専門科目のひとつで、2年次配当の選択必修科目です。3・4年次からの特殊研究ゼミナール選択のためのプレゼミという位置づけであると同時に、現代日本語学の方法を学ぶことを目的としています。

2009年度は、「マンガにあらわれる方言」というテーマで、後期（木曜1限：ML4）に開講しました。このテーマは、「言語ステレオタイプ」や「ことばとキャラクター」に関連するもので、とくにヴァーチャルな世界における「方言」の認識と運用に関連しています。キー概念として、「役割語（金水敏、2003）」、「キャラ助詞（定延利行、2005）」、「方言アクセサリー化（小林隆、2004）」、「方言おもちゃ化（田中ゆかり、2007）」などがあげられます。

ことばとキャラクターに対する関心は高く、2010年2月1日には、国際交流基金関西国際センターが運営するサイトに、キャラクターやジャンルによる日本語表現学習を目的とした日本語学習者向けEラーニングサイト「[アニメ・マンガの日本語 \(http://anime-manga.jp\)](http://anime-manga.jp)」が公開されました。

本サイトは、「日本語学基礎演習2」履修者によるレポートを、Web版の報告書としてまとめたものです。

### 2. 授業の目的・進め方

授業の目的・進め方などは、以下の通りです。

#### 2.1. 授業のねらい

マンガというメディアにおいて日本語の「方言」がどのように用いられているか調査・検討します。そのことを通じ、現代の「日本」において「方言」がどのように受容されているのかをみていきます。同時に、テキストを対象とした言語調査の基本、分析結果の提示方法などを学習します。

#### 2.2. 授業の方法

グループによる演習。授業開始期の全体討議により、調査の対象と調査観点(項目)を決定しました。その後、グループごとにデータ収集と分析を行ない、分析結果の一部について発表を行ないました。発表者は、発表に対するフィードバックを受けて、学期末に2種類の最終課題（冊子報告書、web報告書）を提出しました。なお、この授業は、ML（PC室）で、実習を伴うものであったため、TA（林直樹さん）による授業補助を得ました。また、クラスの運営に科目専用のメイリングリストを構築しました。

各グループにおいてテーマを決定するに際して、次のようなヒントを提示しました。「地域・言語別」、「作品カテゴリ別」、「雑誌別」、「観点別」、「作品発表年代別」。

### 3. 参考文献など

授業導入に際して、以下の文献・サイトなどを紹介しました。

#### 3.1. 方言マンガ探索資料

##### 3.1.1. 雑誌

このマンガがすごい！編集部(編)(2008). ご当地マンガMAP このマンガがすごい！SIDE-B. 宝島社

##### 3.1.2. ウェブ

[exite.ブックス 本・読み物ポータルTOPICS ニュースな本棚 方言ヒロインを探せ \(うめ/難民チャンネル\) http://media.excite.co.jp/book/news/topics/116/ \(2009/9/27最終閲覧\)](http://media.excite.co.jp/book/news/topics/116/)

[集英社マンガネット http://www.s-manga.net/](http://www.s-manga.net/)

[小学館コミックシップ http://comics.shogakukan.co.jp/](http://comics.shogakukan.co.jp/)

[講談社コミックプラス http://kc.kodansha.co.jp/](http://kc.kodansha.co.jp/)

[yahoo!コミック http://comics.yahoo.co.jp/](http://comics.yahoo.co.jp/)

#### 3.2. 言語ステレオタイプ

##### 3.2.1. 単行本

木下順二(1982). 戯曲の日本語 大野晋・丸谷才一(編) 日本語の世界12 中央公論社

金水 敏(2003). ヴァーチャル日本語 役割語の謎 岩波書店

金水 敏(編著)(2007). 役割語研究の地平 くるしお出版

定延利之(2005). ささやく恋人, りきむしポーター 口の中の文化 岩波書店

定延利之・中川正之(編著)(2007). 音声文法の対照 くるしお出版

##### 3.2.2. 雑誌特集

『文学』《特集》ステレオタイプ, 7(6). 岩波書店

⇒定延利之(2006). ことばと発話キャラクター

⇒清水義範・小林幸夫・山田俊治・金水敏(2006). 《座談会》ステレオタイプとは何か

『文学』《特集》言と文, 8(6). 岩波書店

⇒金水敏(2007). 言と文の日本語史

⇒田中ゆかり(2007). 「方言コスプレ」にみる「方言おもちゃ化」の時代

#### 3.2. 言語ステレオタイプ

##### 3.3.1. 単行本

佐藤和之・米田正人(1999). どうなる日本のことば 大修館書店 ⇒友定賢治(1999). 「つくられた」方言イメージと共通語イメージ

真田信治・陣内正敬・井上史雄・日高貢一郎・大野眞男(2007). シリーズ方言学3 方言の機能 岩波書店

金水敏・乾善彦・渋谷勝己(2008). シリーズ日本語史4 日本語史のインタフェース 岩波書店

##### 3.3.2. 論文

井上史雄(1977.08, 09). 方言イメージの多変量解析(上・下) 言語生活, 311,312.

井上史雄(1980). 方言イメージの評価語 東京外国語大学論集, 30.

大石初太郎(1970). 東京の中の方言コンプレックス―「ことばについてのアンケート」報告3― 専修国文, 7.

沖 裕子(1986). 方言イメージの形成 国文学, 64. 北山紗弥子(2004). 消え行く富山弁と、使われ続ける富山弁―マスメディアとの関係から― 語文, 119.

小林 隆(2004). アクセサリーとしての現代方言 社会言語科学, 7(1).

佐藤和之・米田正人(編)(1999). どうなる日本のことば―方言と共通語のゆくえ 大修館書店

真田信治(2000). 脱・標準語の時代 小学館

ダニエル=ロング(1990). 大阪と京都で生活する地方出身者の方言受容の違い 国語学, 162.

田中ゆかり(2001). ケータイ・メールの「おてまみ」性 国文学 解釈と教材の研究, 46(12).

田中ゆかり(2005.03). 携帯メールハード・ユーザーの「特有表現」意識 中村明先生記念論文集 表現と文体 明治書院.

田中ゆかり(2005.03). 携帯メールにおけるキブン表現 語文, 121.

田中ゆかり(2006.04a). メール「方言」は、どこの方言か 国文学 解釈と教材の研究, 51(4).

田中ゆかり(2006.04b). 「東京首都圏」に「方言」はあるのか 国文学 解釈と教材の研究, 51(4).

徳川宗賢(1985). ことばづかひの風土性 九大学連合日本の風土調査委員会(編) 日本の風土 弘文社

中井精一(2004). お笑ひのことばと大阪弁―吉本興業の力とは― 日本語学, 23(10).

新田実(2003). 仮名変換<方言モード>開発の道のり 言語, 32(5).

文化庁国語課(2002). 平成13年度 国語に関する世論調査 日本人の言語能力を考える 財務省印刷局

三宅和子(2006). 携帯メールに現れる方言―「親しさ志向」をキーワードに― 日本語学, 25(1).

山西由里子(2007). 女子大生の書き言葉コミュニケーション―媒体差表現の男女差から― 語文, 128.